2019.6.24

○○中学校　第２学年　　社　会　科　通　信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

No.17

巨大地震が発生した
避難所に届いた「弁当」をどう分配するか？

20○○年9月○○日午前3時、紀伊半島沖でマグニチュード9の超巨大地震が発生した。被災地は関東平野から九州地方にかけて極めて広い範囲に広がった。日本列島の半数以上の都市が壊滅的な状況になり、被災地の数は数え切れない状況になった。

私たちの住む阪神間でも震度7を記録した。道路や鉄道は各地でズタズタに寸断され、町は孤立した。地震発生後、2日目になっても救助隊や救援物資は届かなかった。

地震によって、停電、水道の断水、ガスの停止などインフラも完全に遮断された。木造家屋は倒壊し、鉄筋コンクリートのマンションも傾いた。ひずみで出入り口のドアが開かないマンションも数多くあった。エレベーターは停止したままだ。

自分の家で過ごせる状態ではない人々が町中にあふれた。避難所に指定されていた中学校に、地震発生直後から多くの住民が集まった。多くの人は、食料を冷蔵庫の中から持ち出せるものをリュックに入れてきたが、2日で尽きてしまった。コンビニの食材は地震のあった日の午前7時に売れ切れた。コンビニの補給車は来ない。

避難所が中学校と言っても、先生たちは一人もいない。先生たちも自宅にいる時間帯だったので、学校は事前に鍵を預かっていた近所の人が開けてくれたのだった。

3日目になると、中学校には1000人を超える人が避難している状況になってきている。その内訳は、乳児を抱えた母親が20人、幼児60人、小学生が200人、80歳を超えた高齢者が300人、中学生100人、高校生と大人の男女あわせて400人だ。

食料はない。トイレも使えない。近くに川はあるが、下水管が寸断されている恐れがあるのでトイレを使うと危険な状態になるからだ。人々を体育館だけでは収容できない。人々はめいめいに教室を使い始めている。体を休める場所の取り合いでトラブルも多発する。みんなで話し合わないと共同生活ができない状況になり始めている。

避難所に来た住民の中で、数人の大人が避難所の運営委員会を設置するべきだと提案して、運営委員会が組織されることになった。

3日目の午後5時に、ヘリコプターで800個の弁当が届けられた。避難所が無数に点在していて、次の食料がいつ届けられるかは分からない。弁当の保存はできない。

もし、君たちが運営委員会の委員だったら、この800個の弁当をどのようにして避難所の人たちに配るか。みんなが納得できる提案をグループで考えよう。